



7号

1999年 秋号

## イグナチオ教会と愉快な仲間たち

「もはや二人ではなく一体（One）である」マタイ19・6

## 新・聖イグナチオ教会の誕生

イグナチオ教会が四谷の街のシンボルとして生まれ変わりました。教会に入ると、主聖堂、ザビエル小聖堂、信徒会館、マリア中聖堂、正門脇に鐘楼、これらが中庭の芝を囲むように建ち並び、四季を彩る四谷の土手と相まって、『境内』を構成しています。

新しい教会には、旧い教会から引き継がれたものがなお生き続けています。主聖堂にはステンドグラスや建材が、鐘楼には鐘が、マリア聖堂には、結婚式の退堂シーンで、まばゆい光とともに誰もが目にしたあの旧聖堂のイグナチオ・デ・ロヨラのステンドグラスが…こうして、新しい教会が旧い教会を包み込んで誕生したのです。

## ※平和を告げる鉄の鐘※

鐘楼：断面は、7曜日を意識して正7角形の中空構造。天に近づくイメージで、らせん階段が内側についています。

3つの鐘：旧聖堂の大・中・小の鐘が使われていて、それぞれソフィア・テレジア・イグナチオという名称がついています。

音の届く距離：500m四方。風向き次第では1km先（赤坂御所、四谷三丁目交差点）まで聞こえることもあるとか。

鳴る時刻：ミサの始まる前。

鐘のルーツ：初代主任司祭であったホイヴェルス神父様の兄上の会社で、第2次大戦直後の敗戦国ドイツで鋳造し贈られたもの。材質は、戦争で使われた戦車や大砲を融かした鉄。旧約聖書に「剣を打ち直して鍬とし、槍を打ち直して鎌とする。国は國に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」（イザヤ書2・4）とあります。この精神のもとに、武器から鋳造された鉄製の「平和を告げる鐘」となったのです。

皆さんも是非、鐘が告げる平和の音を聞きに足を運んでみてください。『境内』での会話が困難になるほどの大音量です。また、美しくライトアップされた鐘楼は一見の価値あり！One編集局イチ押しです。



ソフィア・テレジア・イグナチオの3つの鐘

## 主なトピックス

- 新・聖イグナチオ教会
- 平和を告げる鐘
- 司祭からのメッセージ
- 特集 仕事と家庭
- それって本当？
- シンプルライフ
- 教会からのお知らせ（別紙）



'98年の感謝の集い

## 結婚感謝の集いへのお誘い

結婚生活のなかで、「この人と結婚して良かった」と感じたり、また反対に相手のことを思いやれなかったり、それぞれ色々な思いがあると思います。

ちょっと足を止めて私達の出発点である教会に来てみませんか？もしかしたら新しい発見、懐かしい再会があるかもしれません。

主聖堂にて感謝の集い、ヨセフホールにて懇親会。（参加費無料）

是非ご参加ください。

11月7日（日曜日）15:00～です。

## いつまでも恋人のままで…

## Number One Neighbors

この原稿の依頼を受けて、'96冬のOne創刊号を目にした時の印象が鮮やかに蘇った。あの時は、「本当にいい名だな。この3文字以外では、キリスト教的な結婚式の意味と尊さを表すことは不可能に近いだろう。」と思い、名付けた人におめでとうと、ありがとうを申しあげたかった。

イエスは、創世記にさかのぼり、神に創られた人間は男も女も平等で侵すべからざる品位を持つものであり、結婚とは「二人が一体（One）となり、もはや二人ではなく、一心同体である。」と念入りに繰り返された。そしてさらに、「神が結び合わせてくださったものを人は離してはいけない。」とおっしゃった。つまらない理由でも（例えば、味噌汁がまずい）、男だけに離婚が許された時代に、イエスはきっぱりと、真正面からそれを退けられたのだ。この言葉によって、二人の夫婦としての絆とアイデンティティが生まれ、二人が誓いの言葉を交わした後で、私がいつも祝福の言葉として唱えるのもこの言葉である。私はいつまでも、この言葉が忘れられないよう願ってやまない。

もう一つ、「それゆえには父母を離れて、

皆さん こんにちわ  
ネブレダです。



その妻と結ばれる。」というイエスの言葉にも『One』が感じられる。隣人の宗教であるキリスト教—隣人への愛は即ち神への愛。そして父母からの独立に発する結婚。結婚によって、今まで最高の隣人だった親から、新郎と新婦はお互いが第一の隣人—Number One Neighborsへと移り変わる。恋人の気持ち：「誰よりもこの人を大切にしたい」それは神を大切にすることに通じる。いさか落語じみてはいるが、夫にとって妻は「かみさん」ではなく、「かみさま」であるし、パパは「かみなり」—つまり神であるかのように家族に慕われる存在なのだ。

こんなことをセミナーの時、皆さんのが自分の肌でつかんでおられるのを、私も確かなものとして感じとり、49年間の日本での滞在のこの上もない貴重な体験だと思っている。私の祈りは、一言で言えば、「いつまでも恋人のままで…Number One Neighborsでいてほしい…。」

アルフォンソ M. ネブレダ

# 特集

## 仕事と家庭

不況、リストラ、転勤、子供の教育・保育、そして自分たちの夢…

この厳しい時代に、夫婦ふたりで力をあわせて、

自分たちのライフスタイルを追い求めるカップルをクローズアップします。



### Case 1：遠く離れて暮らしても

会社の都合で転勤もあります…

二人は約4年半の交際を経て結婚。1年後に商社に勤める夫が転勤することになった。妻は政府系機関(東京)に勤めており、現在は徳島の住宅と東京の妻の実家とに離れて暮らしているが、毎日の電話と少なくとも2週間に一度は会う生活を続けています。この生活パターンが今秋で丸2年になる。

雅人：「転勤は、大いに悩みましたよ。いつ東京へ戻れるか見当がつかない。妻の仕事への打ち込み度合い、社会に出て働きたい欲求は十分感じていました。無理やり来させるのは互いに悔いを残すことになったでしょう。でも一緒に暮らしたい。」

香奈：「ようやくやりがいでのてきた仕事をすぐに辞めて、夫の赴任先へ行くことは考えられませんでした。でも2人は夫婦なんだから一緒に暮らすのは大原則。いつか決断しなければならないと思いつつ、結論を先延ばしにしています。子供だって出来ないかもしれない不安も感じています。」

二人：「これは私達の課題と受け止めています。二人の距離が物理的だけでなく精神的にも離れていく可能性もありますが、今の二人ならまず心配する必要はないと思います。大切なのは今現在のお互いの考え方や希望を尊重し合うこと。夫婦だからお互い助け合るのは基本。でもその前にお互いが自立して、自分のことは自分で管理し、独りでも生きていける強さと余裕を持たなければ…。今は別居状態なので結婚前の新鮮な気持ち(笑)が持続していますね。でも決してベストではないのです。」

★★★★★★★★★

仕事に対する情熱、そして自立。まさに現代の夫婦像で、円満な別居生活を続けています。最近妊娠していることがわかり、この変則的な生活パターンにも変化が生じる気配です。(Y・M)

### Case 2：家事の分業化？

妻が働くことに対して夫は…

二人が出会ったのは、会社の新人研修。今もその会社は、夫の勤務先である。二人が結婚したとき、妻は既に会社を辞め、看護婦を目指して看護大学に通う学生だった。国家試験に合格後、看護婦として働きはじめ、妊娠そして出産。母となった現在も、大学病院に勤務している。心身ともにキツイ仕事を持つ妻と会社員の夫。生活時間帯がズレがちで結婚生活を維持するのが難しそうに見える。

康夫：「前職(O.L.)は彼女にとって、天職ではないと思っていました。だから新たなチャレンジには、賛成でしたね。妻が仕事を持つことで、夫として不安があったかとのご質問ですが、私たちには、家事・育児は女性(妻という立場の人)がするものという認識がありません。家事・育児は、僕自身の問題でもあるわけです。特に子供が生まれてからは、できる方ができる時にこなしていくないと…。子供は待ってくれませんから。」

恭子：「私も『家事と育児』を一手に引き受けようと思ったことはありません。(笑)もちろん、私にだって愛する家族に温かい食事を作って喜ばせたいという気持ちちはありますよ。子供は生後3ヶ月から保育所に預けました。子供の送り迎え

も、その日の勤務によって、私がしたり、夫がしたり。実際、心身ともにたくたになります。いつまでこんな生活を続けるのかと疑問に思ったりもします。そろそろ自分の手で子育てもしたいし。でも、将来は在宅ケアなど地域医療に参加していきたいと考えているので、今はそのための準備期間！と自分に言い聞かせつつ毎日です。」

二人：「これからも、二人で話し合いながら、『仕事と家庭』のバランスをとっていきたいと思います。」



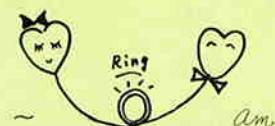
★★★★★★★★★

小さい頃から男女平等が当然だった私たち世代にも、このカップルの姿勢は進歩的？。いずれもお互いが自分らしく生きて行くために必要なパートナー。一人でなく二人。改めて夫婦が二人で在ることの意味を考えさせられました。(A・M)

### 結婚指輪物語

～結婚式でのクライマックス、指輪の交換。

式の中で最も緊張し、また感激もひとしおの場面です。～



初めて結婚指輪が使われたのは、遙か昔の紀元前2800年頃のエジプト王朝。始まりも終わりもない「輪」は、永遠の愛のシンボルだったのでしょうか。

指輪を左手の薬指にはめるのは、紀元前3世紀のギリシアのお医者さん達のロマンチックな妄想？からなんです。なんと！彼らは「恋の血管」が薬指から心臓まで通じていると信じていたんですって。

さて現在、結婚指輪の多くは純度の高い金属で出来ていますよね。そこには、品位、永遠性、良質といった意味があります。無垢の指輪の裏側に、唯一相手の名前を彫って贈り、また相手からの指輪を受けることは、「私はこの人の為に最後まで尽くします」という意思表明。小さなリングにこめられた幾重もの願いをもう一度見直してみませんか？

## Case 3：夫はいつも午前様… 働き盛りは残業・付き合い・休日出勤…

結婚して5年。夫は信用金庫の職員。朝早く仕事に出かけ、帰宅はいつも深夜。若手は得意先や地域のイベントなどに駆り出されて休日返上も珍しくない。

妻は専業主婦。職場結婚なので仕事の内情はよくわかっているが、幼稚園児と新生児の二人の子供を抱え、てんてこ舞いの毎日を送っている。でも、将来自分も何かボランティア活動のようなことをしたいという希望を持っている。

和彦：「仕事は早く切り上げたいんですが、やればやるほど増えてしまうのが現状でして…。リストラで人手は減るし、今は我慢の時かな？と思っています。残業は夜10時位までだけど、そのあと付き合いでお酒を飲むことが多くて、帰宅が遅くなってしまう。まあ、これが僕にとっては一種のストレス解消になっているんだけど、結果的に家事・育児は由美に任せっきりだよね。」

由美：「職場結婚の場合、妻が退職するのが慣例で、なんとなく私も仕事を辞めて専業主婦になりました。思いのほか育児も家事も年中無休24時間営業でとても大変だということもわかってほしい。特に下の子が生まれてからは、忙しさで目が回りそう。そんな時一人で夜遅く、夫の帰りを待っていると気が滅入ってしまうこともしばしば、なんです。かといって私も同じ職場にいたから、夫の状況はよくわかります。せめて、日曜日だけでも家に居てくれたら、と思うのですが。」

和彦：「確かに休日出勤は多いね。代休

が取れれば、まだいいんだけど。これからは、少し『不義理』して付き合いは減らすようにしてみるよ。」

由美：「健康には気をつけてね。」

★★★★★★★★★

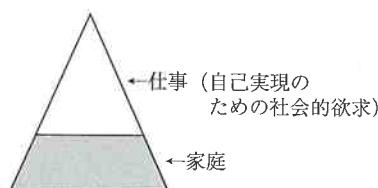
根本的解決はまだ時間がかかりそうですが、取材をしていて厳しい状況の中で、お互いを理解しようという姿勢が印象的でした。(H・Y)



住

★★★★★

「仕事と家庭」というテーマでは、この二つの関わりということが最大の問題点といえそうです。あるカップルは次のような図で家庭と仕事の関係を示してくれました。どのカップルも家庭を土台として、それぞれの自己実現のために夫と妻がお互いに励まし合い、譲り合って協力していく姿勢でした。



？？？？？

シリーズ③

## それって本当？

栗本昭夫

イエス・キリストの誕生はその700年前に「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。」(マタイ1:23)と預言されていました。

受胎を告げにきた天使はマリアに言いました。「アベ・マリア、あなたは神から恵みをいただいたのです。あなたは身ごもって男の子を産むでしょう。その名をイエスと名付けなさい。彼は偉大な者となり、いと高き方の子と呼ばれます。」(ルカ1:26)ヨゼフの許婚であったマリアは当然困惑し、天使にこう言います。

そこで●oneは、まず夫と妻が「役割」と「心」を上手にシェアする（分かち合う）ことを提案します。そしてもし、二人で間に合わなければ周囲の人たちとのシェアを考えることはどうでしょうか。親、兄弟、友人、隣人、保育所その他の社会制度、そしてセミナーの指導司祭、ヘルパーや仲間たち…積極的にシェアの輪を広げましょう。

一人で抱え込まず、二人だけで悩まず、問題を解決するために多くの人たちの手を借りる勇気を持ちたいものです。自分たちも周りの人たちの役に立つようになることで「借り」はいつか返すことができるのではないかでしょうか。きっと平和な関係が少しずつ広がっていくことでしょう。●oneも陰ながらお役に立てればと思っております。

最後に●one 6号のアンケートに寄せられた回答から幾つかご紹介いたします。多数のご回答ありがとうございました。ほとんど妻からのものでした。「夫の声」もお待ちしています！

♥主婦、育児を自分の天職としてすべて受け入れている。夫の理解が無二の幸せ。

♥現在共働き。子供が生まれたが、再就職の厳しさを考え辞められない。周囲の理解があるなら仕事を続けるのが一番。

♥産休、育休後復職したが、残業が多いため、子供の気持ちを考えて退職。育児は神が与えてくれたもの。今はパートで、収入は以前の1/20だが満足。

♥結婚後、派遣社員として希望職に。忙しいが、主人も協力してくれるようになり、夫婦仲も良くなった。



15. Fra Angelico. The Annunciation.

## 受胎告知

受胎告知とは、ガリラヤのナザレに住む一人のおとめ、マリアが神の子イエスを身ごもることを告げられることを言います。マリアは神の力（聖霊）によってイエスを宿しました。イエスの母はマリアであり、父は神ということになります。

「どうしてそのようなことがありましたか。わたくしは男の人を知りませんのに。」しかしその後の天使の話を聞き、最後にマリアは美しい純粋な信仰のもとに決断します。「わたくしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」

人間の常識、理屈を超越した人間以上の何者かの意志、能力をここに感じ単純にこれを受け止めること、これが信仰です。信仰とは神から言わされたことを、無条件にうなづくことです。

カトリックでは人間の救<sup>わざ</sup>いは純粋に神の業であると考えています。



# シンプルライフ —好きな生き方を創る—

生活を簡素にし、精神的そして経済的な負担を減らして、余裕を持って生きよう、という「シンプルライフ（シンプルリビング）」の考え方古くからありますが、モノや情報が溢れる先進国において、いま改めて注目されています。日本でも実用書やインターネットなどを通じて関心が高まりつつあります。

## 積極的に生きる

便利で快適な暮らしに慣れている私たちにとって、生活の簡素化は難しい作業です。消費の仕方や収支のバランス、住環境、既存の家財道具の必要性、食生活、時間の使い方、人間関係、仕事などを見直し、決断を下すことがおのずと求められるからです。しかし、このプロセスは自分を知る旅でもあります。シンプルライフは、表面的には裕福で楽に見えても、実は惰性に流れ、束縛とストレスも多いという生活と決別し、何が本当に大切であり、何を本当にやりたいのかを見極めて、積極的に生きてゆくための指針なのです。



## 夫婦で築くシンプルライフ

夫婦の場合、一人だけでシンプルライフを実践するという訳には行きません。自分たちの生活全体にかかるだけに、二人の価値観をさらに分かち合うことが必要となります。つまり、夫婦の絆をより強くする絶好の機会なのです。二人でシンプルライフに関する本を読み、話し合ってみませんか。自分たちにもっとふさわしい、「楽な」人生をではなく、「好きな」人生を創るために。

## 小さなお話 サンタ・クロース

サンタ・クロースってどんな人だと思う？ それは聖ニコラオ司教のことです。ニコラオは西暦270年に今のトルコのパトーレに、裕福な家の子供として生まれました。両親が亡くなつてから、ニコラオは神様のために、遺された財産を良いことに使おうと思いました。中でも有名なのは、ある三人の娘を助けたお話です。

ニコラオと同じ町に住む靴屋さんには、三人の娘がいましたが、ひどく貧乏で、娘たちの結婚の準備をするお金がありませんでした。困った靴屋さんは、思い余って、娘たちを売り飛ばしてしまおうとしました。それを聞いてびっくりしたニコラオは、ある晩こっそり、上の娘が結婚するのに十分なお金を靴屋さんの家へ投げ込んであげました。謙遜なニコラオは人に知られたくなかったのです。そし

て妹二人の分として、次の晩も、また次の晩もそうしました。ところが、ありがたく思った靴屋さんが、三晩目に寝ずに見張っていたので、プレゼントの主がニコラオだとばれてしまいました。ニコラオは、このことを人に言つてはいけないと、靴屋さんにかたく口止めしましたが、いつしかニコラオの親切な行いは広く知れ渡るようになりました。

だからサンタ・クロースは良い子たちが寝ている時に、わからないようにそとやつてくるんですよ。良い子のみなさんもサンタおじいさんのまねをして人が見ていなくてもそと良いことをしましようね。

のちにミーラ司教様になった聖ニコラオのお祝い日は12月6日です。



## お詫びと訂正

前号 司祭からのメッセージに寄稿していただいたデ・スーザ神父様のお名前の表記をヴァレンタインと致しましたが、バレンタインの誤りでした。訂正させていただきます。神父様にはこの場をお借りして深くお詫び申し上げます。

## 編集後記

ミサ開始10分前。突然モータがうなりをあげた。チェーンが動き、滑車がゆっくり回転を始めた。まずソフィアが揺れ始めた。何往復かすると、沈黙していたテレジアも揺れ始めた。空気を切る音と金属のきしむ音——なぜかこどもの頃のブランコこぎを思い出した——ソフィアが水平に達すると次の瞬間、グワーン！ついに鐘が打鐘棒に激突した。テレジアのスイングもいよいよ大きくなり、ついに大音響。絶好のシャッターチャンスのはずだったが、本能的に指は耳栓と化した。撮影不能。皮膚からも容赦なく激音

は侵入し、鐘が完全に静止するまでは指の力を緩めることはできなかった。もし、特別な日にならす最大のイグナチオが揺れていたら…「鉄塊の激しい揺れと鉄塊と鉄棒の激突」脳裏に焼きついたこの映像を現像してお見せできないのが残念です。えつ、次号でまた!? (地上40mで直撃取材を試みた健)



## ネメシェギ神父様来日

宗教の自由が認められるようになったハンガリーへ、神学生指導のため戻られたネメシェギ神父様が、今年7月に来日されました。約1ヶ月の滞在中は、默想会・講義・ミサ・洗礼式など、相変わらず分割みのお忙しい神父様でしたが、結婚セミナーの同窓会をしっかりとスケジュールに組み込んでくださいました。神父様とセミナー修了者とで計画を立てた同窓会では、子供たちも交え、神父様の温かいお人柄に久しぶりに接して、セミナー当時のように神父様を中心に皆の心が一つになりました。お会いできなかった皆さんにくれぐれもよろしくのことでした。



## 編集参加者（五十音順）

新井 直子	福富 達夫
内田 京子	藤枝 香織
城間 正人	満尾 佳子
鈴木 肇／庸子	森本 亜希子
武田 伸子	柳谷 晃子
玉木 健太郎／泉	山本 浩

発行 聖イグナチオ教会 ●one編集局  
(担当/城間正人・鈴木庸子)

ご意見・記事投稿・アンケート返送は下記までお願いします。  
〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5  
聖イグナチオ教会 ●one編集局  
TEL : 03-3263-4584  
FAX : 03-3263-4585  
URL: http://www.ignatius.gr.jp

この冊子は再生紙を使用しています